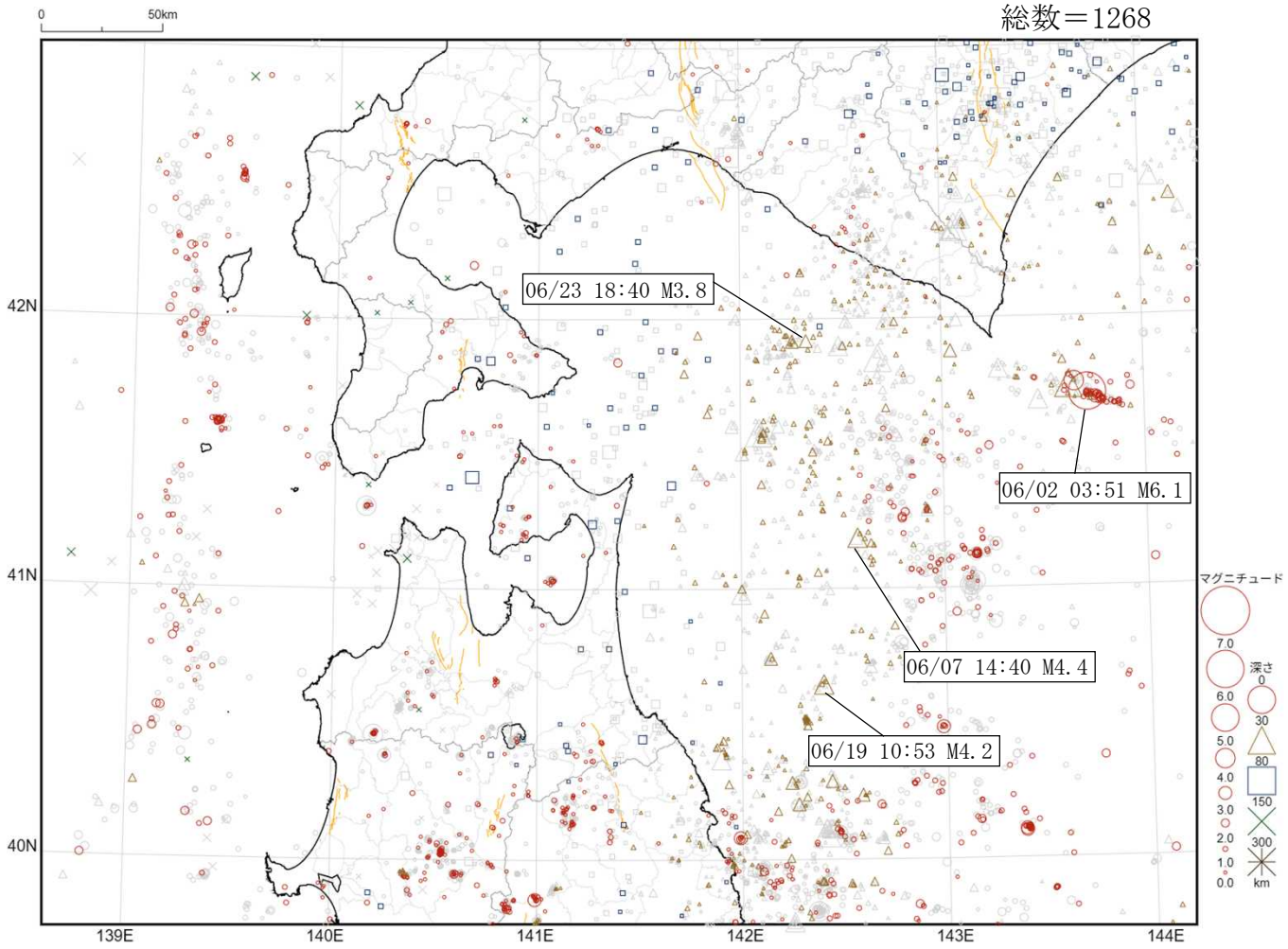
渡島・檜山地方の地震活動図

2025年6月

函館地方気象台

震央分布図



・図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
・過去の地震と比較するため、前３ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
・本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

地震概況（2025年6月）

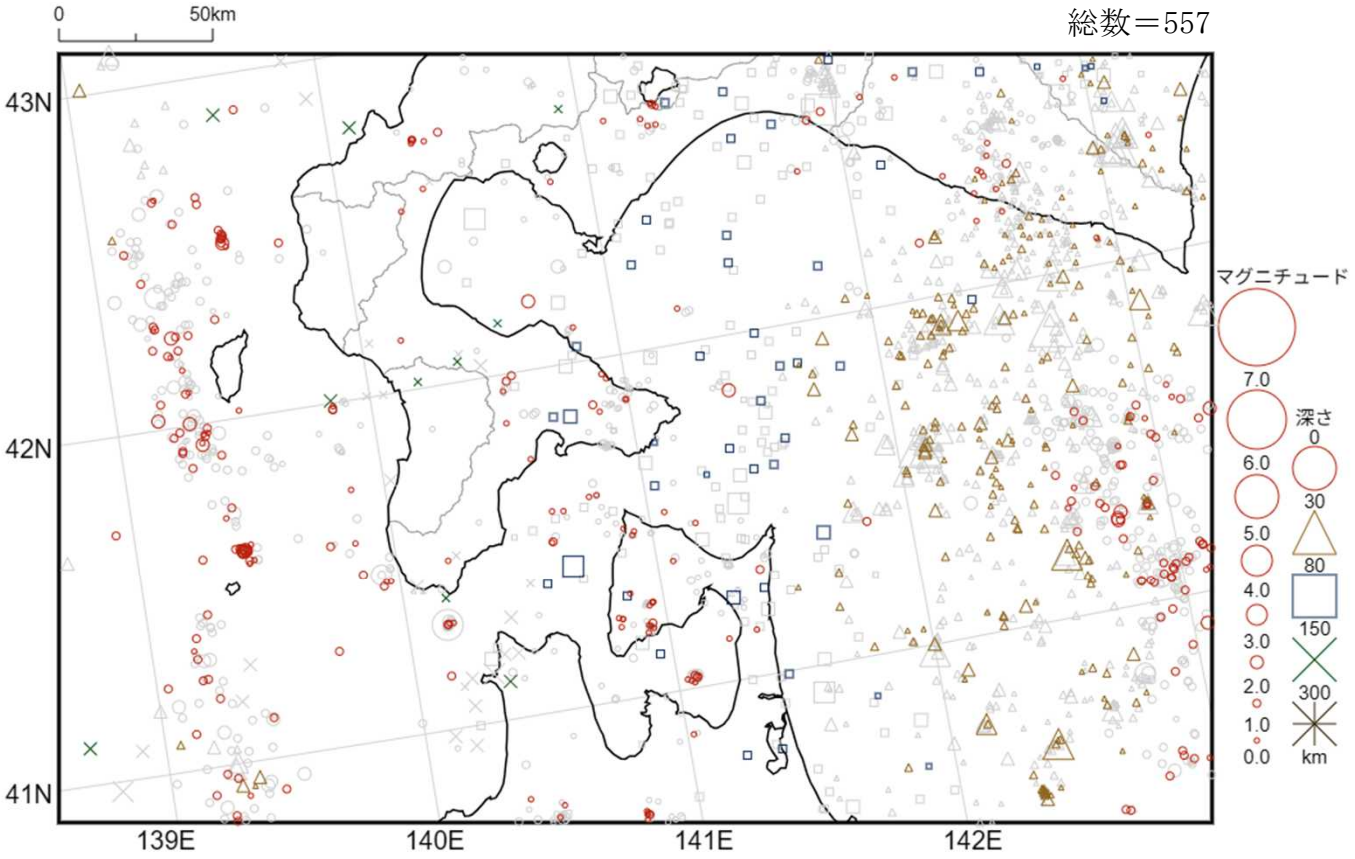
この期間、渡島・檜山地方の震度観測点で震度１以上を観測した地震は６回（５月は13回）でした（詳細は「渡島・檜山地方で震度１以上を観測した地震の表」参照）。

２日03時51分、十勝沖の地震(M6.1、深さ27km)により、函館市泊町、函館市新浜町、上ノ国町で震度２を観測したほか、渡島・檜山地方で震度１を観測しました。

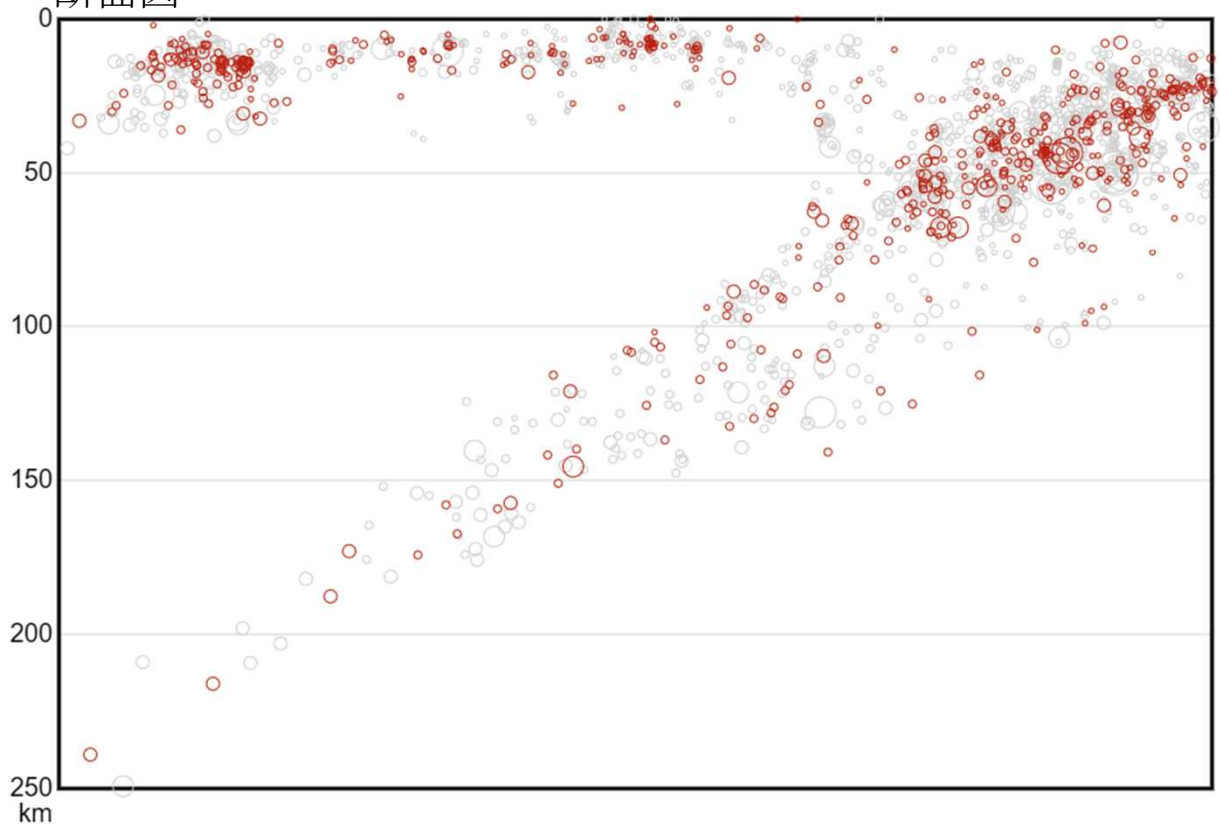
この活動図は、函館地方気象台のホームページに掲載しています。
https://www.data.jma.go.jp/hakodate-c/statistics/earthquake-report.html
この資料に関する問い合わせ先　函館地方気象台　TEL　0138-46-2211

2025年6月

震央分布図



断面図

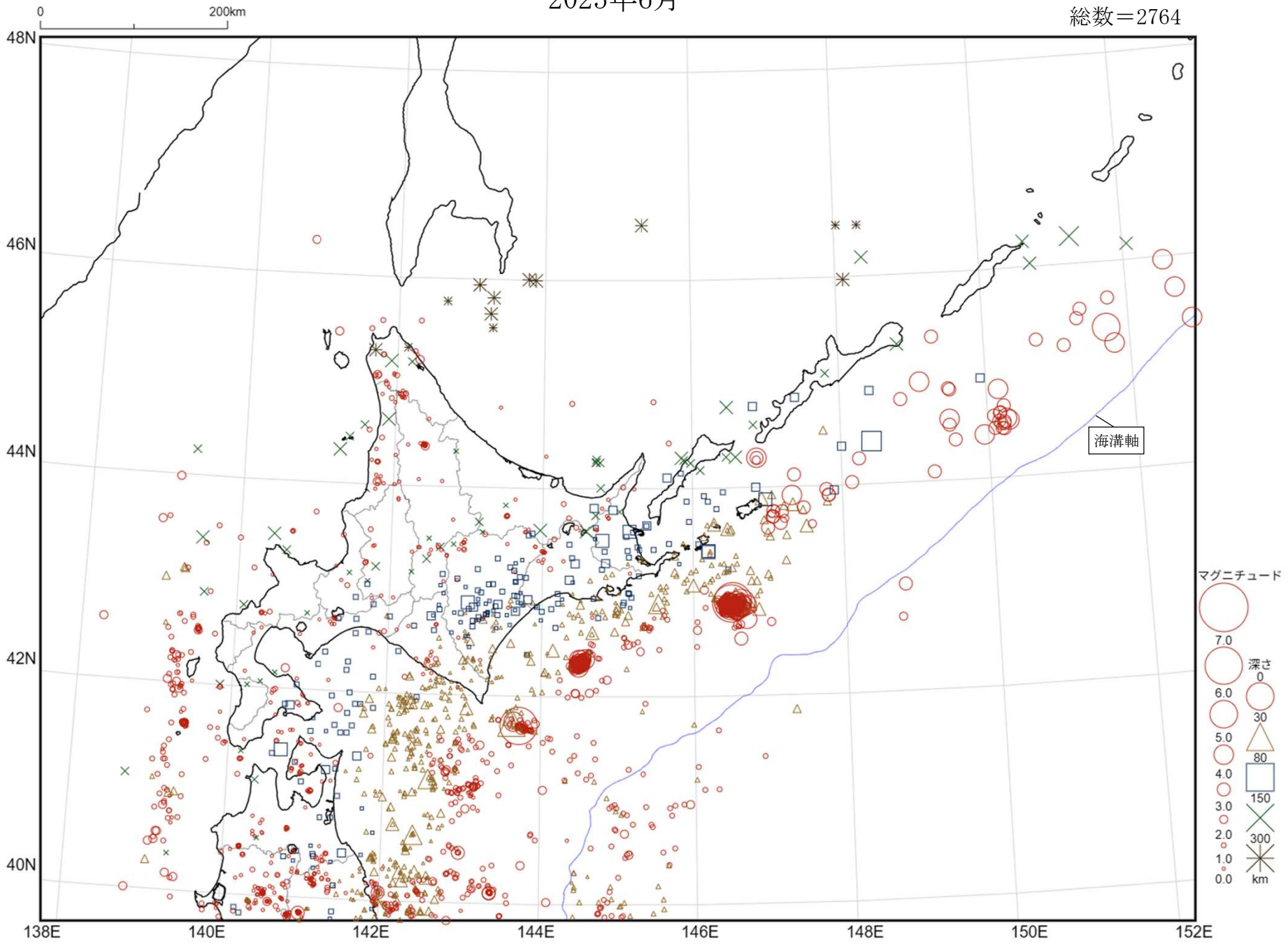


北海道の地震活動図

震央分布図

2025年6月

総数＝2764



渡島・檜山地方で震度１以上を観測した地震の表
（2025年6月）

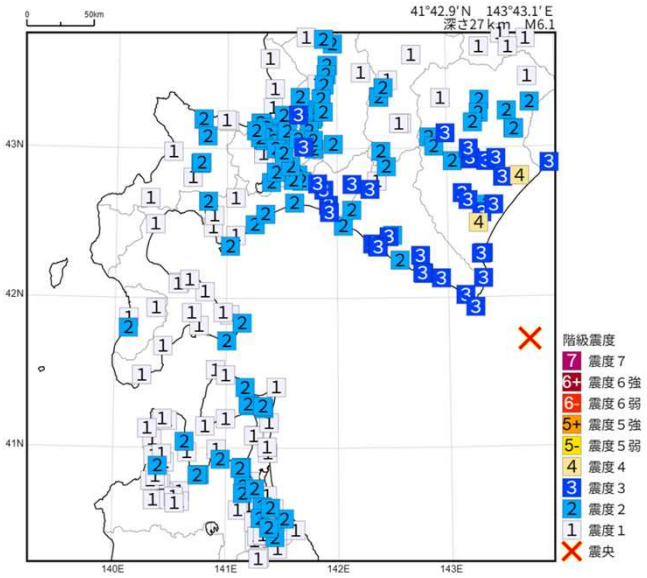
	年　月　日　時　分　震央地名　北緯（N）　東経（E）　深さ（ｋｍ）　規模（M） 地方　震度　震度観測点名
1	2025年 6月 2日　03時51分　十勝沖　41° 42.9′ N　143° 43.1′ E　27ｋｍ　M6.1 渡島地方　震度２　函館市泊町＊(23)　函館市新浜町＊(21) 震度１　長万部町平里＊(12)　函館市尾札部町(06)　函館市美原(09)　函館市川汲町＊(07) 七飯町桜町(07)　鹿部町宮浜＊(11)　渡島森町御幸町(10)　渡島森町上台町＊(09) 渡島森町砂原＊(14)　福島町福島＊(05)　木古内町木古内＊(14) 檜山地方　震度２　上ノ国町大留＊(16) 震度１　檜山江差町姥神(09)　厚沢部町木間内＊(13)
2	2025年 6月 7日　14時40分　青森県東方沖　41° 11.2′ N　142° 34.3′ E　43ｋｍ　M4.4 渡島地方　震度１　函館市泊町＊(08)
3	2025年 6月14日　03時35分　千島列島　45° 36.1′ N　153° 04.6′ E　30ｋｍ　M6.2 渡島地方　震度１　函館市新浜町＊(09)
4	2025年 6月19日　08時08分　根室半島南東沖　42° 54.7′ N　146° 30.7′ E　25ｋｍ　M6.0 渡島地方　震度１　函館市新浜町＊(13)
5	2025年 6月19日　10時53分　青森県東方沖　40° 38.8′ N　142° 23.9′ E　45ｋｍ　M4.2 渡島地方　震度１　函館市泊町＊(05)
6	2025年 6月23日　18時40分　浦河沖　41° 55.1′ N　142° 19.6′ E　68ｋｍ　M3.8 渡島地方　震度１　函館市泊町＊(06)

＊のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
（　）内の数値は0.1単位の詳細な震度（計測震度）の小数点を省略して表しています。

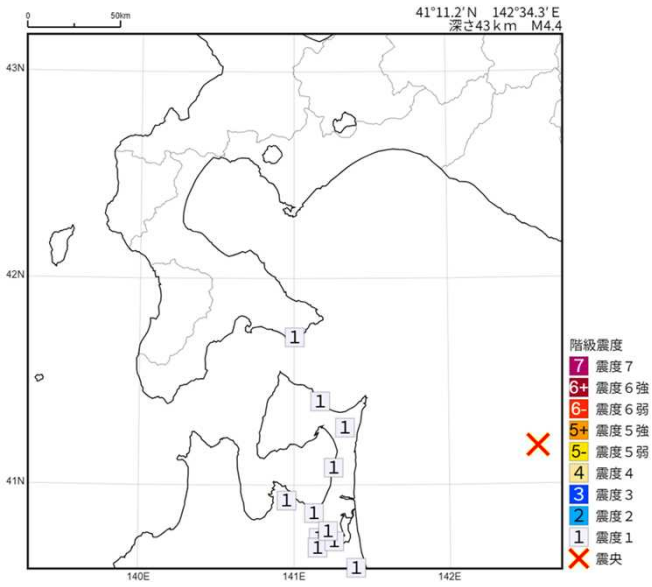
計測震度と震度階級の関係

計測震度	～0.4	0.5～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～4.9	5.0～5.4	5.5～5.9	6.0～6.4	6.5～
震度階級	0	1	2	3	4	５弱	５強	６弱	６強	7

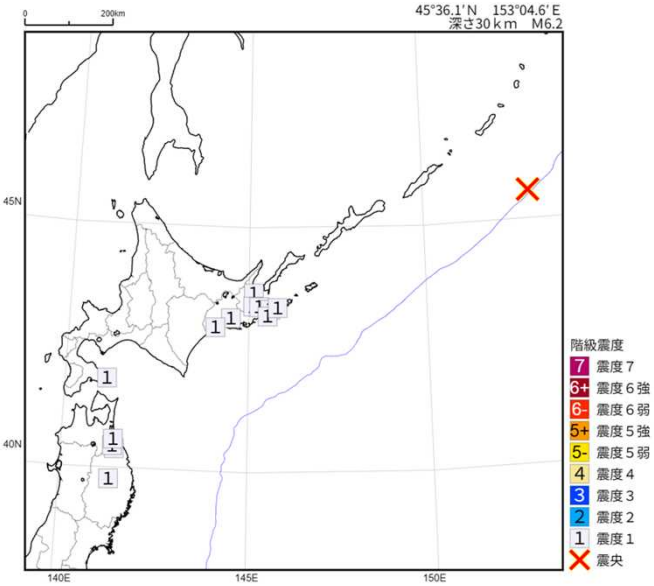
2025年 6月 2日　03時51分　十勝沖の地震の震度分布図



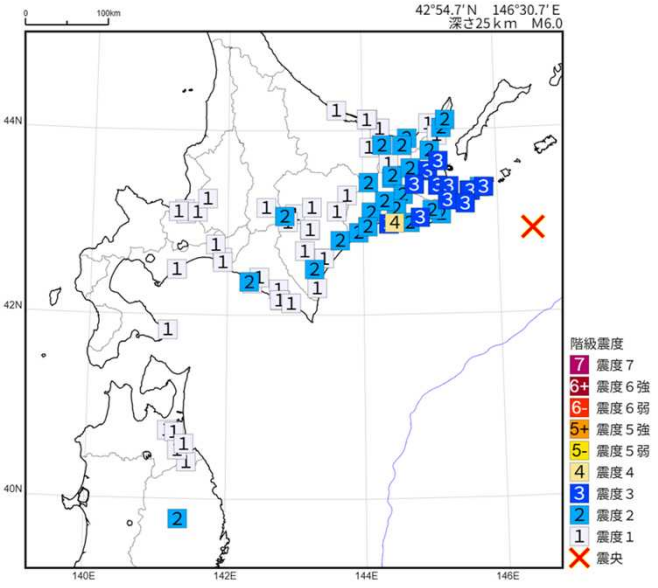
2025年 6月 7日　14時40分　青森県東方沖の地震の震度分布図



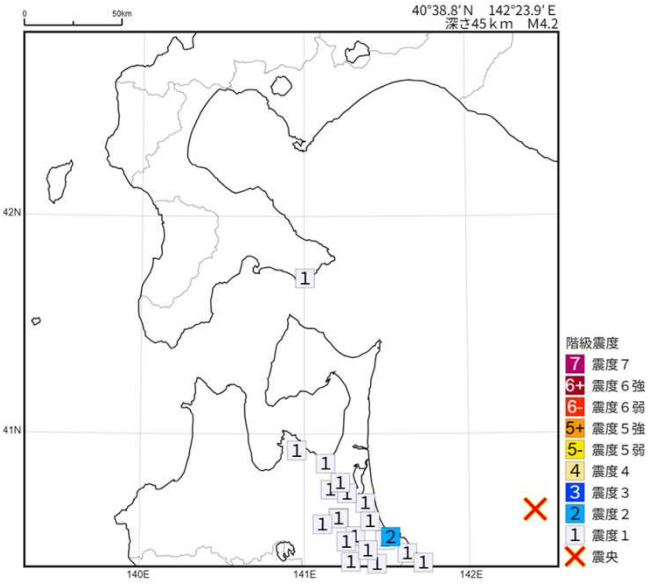
2025年 6月14日　03時35分　千島列島の地震の震度分布図



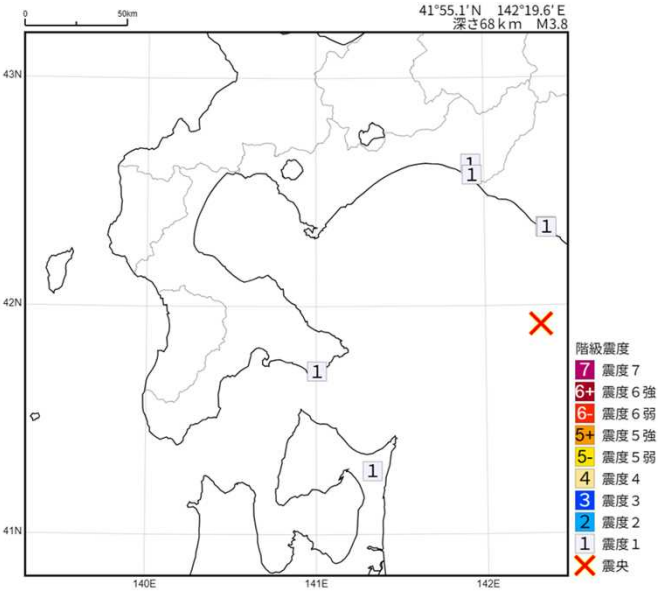
2025年 6月19日　08時08分　根室半島南東沖の地震の震度分布図



2025年 6月19日　10時53分　青森県東方沖の地震の震度分布図



2025年 6月23日　18時40分　浦河沖の地震の震度分布図



本資料の利用にあたって

・本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

【防災メモ】
～津波フラッグは避難の合図～

●津波フラッグ

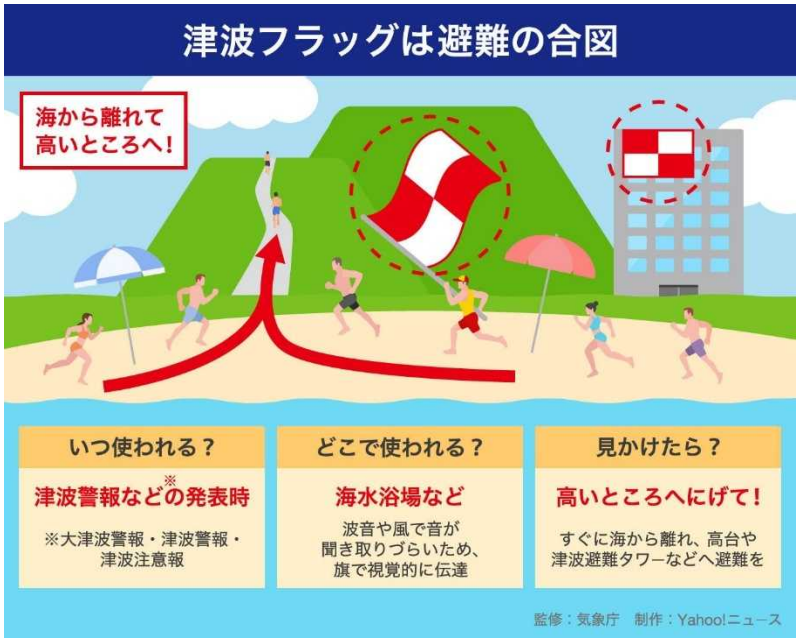
「津波フラッグ」は大津波警報、津波警報、津波注意報（以下、「津波警報等」という）が発表されたことをお知らせする旗です。

津波警報等は、テレビやラジオ、携帯電話、サイレン、鐘等、様々な手段で伝達されますが、令和２年６月から海水浴場等で「津波フラッグ」による視覚的伝達が行われています。「津波フラッグ」を用いることで、聴覚に障がいをお持ちの方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせできます。海水浴場や海岸付近で津波フラッグを見かけたら、速やかに避難を開始してください。

海岸で津波フラッグを振っているイメージ

（公益財団法人　日本ライフセービング協会提供）

※旗を建物に掲げるなど他の手法でお知らせすることがあります



津波フラッグは、長方形を四分割した、赤と白の格子模様のデザインです。主に船舶間の通信に用いられ、「貴船の進路に危険あり」を意味する国際信号旗である「U旗」と同様のデザインとしています。

※U旗は右図のように他の国際信号旗と組み合わせることで、別の意味になることがあります。

（例：U 旗とW 旗（同じく国際信号旗）を組み合わせて用いると「安全な航行を祈る」の意味となります。）

●参考 URL（気象庁 WEB サイト）

津波フラッグの解説：

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html